

福山市子どもの生活に関する実態調査 (子どもと保護者向け) 結果 (中間報告)

福山市では、今後の子どもの貧困対策における効果的な支援のあり方を検討するため、子どもの生活実態や学習環境等について調査を実施しました。小学校5年生、中学校2年生とその保護者を対象とした調査の結果(中間報告)は、以下のとおりです。

調査の概要

区 分		小学校5年生の家庭	中学校2年生の家庭
調査対象者数	子ども	1,502人	1,554人
	保護者	1,502人	1,554人
有効回答数 (回答率)	子ども	1,326人(88.3%)	1,288人(82.9%)
	保護者	1,324人(88.1%)	1,281人(82.4%)
調査対象者		小学校5年生とその保護者, 中学校2年生とその保護者	
調査方法		無記名 密封調査	
調査時期		2017年(平成29年)7月	

【本調査における「生活状態」の取り扱いについて】

本調査では、子どもの貧困状態を世帯の所得額だけでなく家庭環境全体で把握すべきであると考え、次の3つの要素に基づいて以下のように分類した。(詳細は別紙のとおり)

① 低所得

等価世帯所得※1が、厚生労働省「平成28年国民生活基礎調査」から算出される基準※2未満の世帯※3

※1 世帯所得(公的年金など社会保障給付を含めた世帯所得)を世帯人数の平方根で割って調整した所得

※2 厚生労働省「平成28年国民生活基礎調査」(所得は平成27年値)の世帯所得の中央値(428万円)を、平均世帯人数(2.47人)の平方根で除した値の50%である136.2万円

※3 低所得世帯の割合は、世帯所得の把握の方法や、可処分所得ではなく当初所得を用いている点などの違いがあるため、厚生労働省「平成28年国民生活基礎調査」で公表されている「子供の貧困率」(13.9%)と比較できるものではない。

② 家計の逼迫

経済的な理由で、公共料金や家賃の滞納、食料・衣類を買えなかった経験など7項目のうち、1つ以上該当

③ 子どもの体験や所有物の欠如

子どもの体験や所有物などの15項目のうち、経済的な理由で欠如している項目が3つ以上該当

生活困窮層	2つ以上の要素に該当
周辺層	いずれか1つの要素に該当
生活困難層	生活困窮層 + 周辺層
非生活困難層	いずれの要素にも該当しない

主な調査結果

1 生活困窮の状況

「低所得」や「家計の逼迫」、「子どもの体験や所有物の欠如」のうち2つ以上に該当し、生活困窮層にあると思われる小学校5年生の家庭は10.5%、いずれか1つに該当するその周辺層まで含めた生活困難層にあたる小学校5年生の家庭は28.1%、同様に中学校2年生の家庭は生活困窮層が11.2%、生活困難層が32.7%であった。

また、世帯構成別では、小学校5年生のひとり親家庭の32.2%が生活困窮層、中学校2年生のひとり親家庭の31.8%が生活困窮層である。

区 分		小学校5年生の家庭	中学校2年生の家庭
	生活困窮層	10.5%	11.2%
	周 辺 層	17.6%	21.5%
	生活困難層	28.1%	32.7%
	非生活困難層	71.9%	67.3%

(世帯構成別の生活困難層の内訳)

区 分			ふたり親の家庭	ひとり親の家庭
生活 困 難 層	生活困窮層	小学校5年生	6.7%	32.2%
		中学校2年生	7.1%	31.8%
	周 辺 層	小学校5年生	15.2%	32.2%
		中学校2年生	18.3%	38.5%
非生活困難層		小学校5年生	78.1%	35.7%
		中学校2年生	74.6%	29.7%

※端数処理の関係で、合計が100.0%とならない場合がある。

2 子どもの学び

生活困難層の子どもは、非生活困難層の子どもに比べて、学校の授業がわからないと感じる割合が高く、自分自身の成績評価が低い。学校でのつまずきは全体的に小学校低学年の段階から発生しており、生活困難層の場合は特にその時期が早く、小学校では、約15%が小学校1年生でわからなくなったと回答している。

一方、生活困難層の保護者は、非生活困難層の保護者に比べ、子どもの学びに関する関わり度合いがやや低い。

① 学校の授業の理解度

- ・ 授業がわからないと感じる子どもは、非生活困難層に比べ生活困難層に多い。

授業が「わからないときのほうが多い」「ほとんどわからない」と答えた児童生徒の割合
小5 生活困難層：12.3% (困窮層：15.3%，周辺層：10.5%)，非生活困難層：6.5%
中2 生活困難層：22.9% (困窮層：30.7%，周辺層：18.7%)，非生活困難層：13.1%

② 授業がわからなくなってきた時期

- ・ 小学校では、小学3年生までが、生活困難層において5割を超えている。
- ・ 中学校では、小学校段階が生活困難層において約3.5割となっている。

授業が「分からなくなってきた時期」の児童生徒の割合
小5 (小1のころ) 生活困難層：15.6% (困窮層：13.3%，周辺層：17.6%)，非生活困難層：4.5%
小5 (小3まで) 生活困難層：53.1% (困窮層：46.7%，周辺層：58.8%)，非生活困難層：31.8%
中2 (小学校まで) 生活困難層：35.9% (困窮層：38.7%，周辺層：33.4%)，非生活困難層：42.4%

③ 自分自身によるクラスの中での成績評価

- ・ 自分自身の評価が低いと感じている子どもは、非生活困難層に比べ生活困難層に多い。
- ・ 中学校では、生活困難層の約4.5割が、自分をやや下の方以下と評価している。

「上のほう」「やや上のほう」と答えた児童生徒の割合
小5 生活困難層：19.5% (困窮層：11.2%，周辺層：24.6%)，非生活困難層：37.1%
中2 生活困難層：14.3% (困窮層：10.9%，周辺層：16.2%)，非生活困難層：27.5%
「下のほう」「やや下のほう」と答えた児童生徒の割合
小5 生活困難層：31.1% (困窮層：42.9%，周辺層：23.9%)，非生活困難層：17.6%
中2 生活困難層：44.4% (困窮層：52.4%，周辺層：40.1%)，非生活困難層：29.3%

④ 保護者が子どもの勉強をみる頻度

- ・ 保護者が子どもの勉強をみる機会が、めったにないのは、非生活困難層に比べ生活困難層にやや多い。

子どもの勉強をみる機会が「めったにない」と答えた保護者の割合
小5 保護者 生活困難層：19.4% (困窮層：25.5%，周辺層：15.8%)，非生活困難層：16.1%
中2 保護者 生活困難層：56.4% (困窮層：57.8%，周辺層：55.6%)，非生活困難層：55.4%

3 子どもの生活

生活困難層の子どもは、非生活困難層の子どもに比べて、朝食の欠食や孤食の割合が高い。また、歯磨きの習慣が整っていない子どもは生活困難層に多い。

① 平日に朝食をとる頻度

- ・朝食を食べない子どもは、非生活困難層に比べ生活困難層に多い。

朝食を「いつも食べない」「食べないほうが多い」と答えた児童生徒の割合

小5 生活困難層：8.8% (困窮層：10.2%，周辺層：8.0%)，非生活困難層：1.7%
中2 生活困難層：12.0% (困窮層：18.8%，周辺層：8.3%)，非生活困難層：5.8%

② 平日と一緒に食事をとる人

- ・孤食の状態にある子どもは、非生活困難層に比べ生活困難層に多い。

朝食を「一人で食べる」「朝ごはんは食べない」と答えた児童生徒の割合

小5 生活困難層：24.5% (困窮層：37.8%，周辺層：16.6%)，非生活困難層：16.5%
中2 生活困難層：40.9% (困窮層：41.6%，周辺層：40.6%)，非生活困難層：32.8%

③ 平日の放課後の状況

- ・中学校では、平日の放課後、一人である子どもは、非生活困難層に比べ生活困難層に多い。

「一人である」と答えた児童生徒の割合

小5 生活困難層：8.0% (困窮層：9.2%，周辺層：7.4%)，非生活困難層：8.8%
中2 生活困難層：7.2% (困窮層：5.9%，周辺層：7.8%)，非生活困難層：6.6%

④ 歯磨きの習慣

- ・歯磨きをしない子どもは、非生活困難層に比べ生活困難層に多い。

歯磨きを「週に数回」「月に数回」「めったにしない」と答えた児童生徒の割合

小5 生活困難層：18.0% (困窮層：30.7%，周辺層：10.4%)，非生活困難層：6.3%
中2 生活困難層：10.3% (困窮層：6.9%，周辺層：12.0%)，非生活困難層：5.9%

4 子どもの健康

生活困難層の子どもは、非生活困難層の子どもに比べて、自分の健康感が低く、医療機関の受診抑制を経験している割合が高い。

① 健康状態の実感

- ・自分の健康状態をあまりよくないと感じている子どもは、非生活困難層に比べ生活困難層に多い。

健康状態を「よくない」「どちらかといえばよくない」と答えた児童生徒の割合

小5 生活困難層：6.9% (困窮層：8.2%，周辺層：6.1%)，非生活困難層：4.1%

中2 生活困難層：11.3% (困窮層：16.9%，周辺層：8.3%)，非生活困難層：5.2%

② 過去1年間に子どもを医療機関で受診させなかった経験

- ・受診させなかった保護者は、非生活困難層に比べ生活困難層に多い。

「受診させなかった」経験があると答えた保護者の割合

小5 保護者 生活困難層：22.0% (困窮層：23.5%，周辺層：21.1%)，非生活困難層：13.2%

中2 保護者 生活困難層：22.5% (困窮層：30.4%，周辺層：18.4%)，非生活困難層：14.7%

③ 虫歯の本数

- ・虫歯が4本以上ある子どもは、非生活困難層に比べ生活困難層に多い。

虫歯が4本以上あると答えた児童生徒の割合

小5 生活困難層：5.4% (困窮層：5.1%，周辺層：5.5%)，非生活困難層：2.2%

中2 生活困難層：2.7% (困窮層：4.0%，周辺層：2.1%)，非生活困難層：1.5%

5 子どもの自己肯定感や将来の夢

生活困難層の子どもは、非生活困難層の子どもに比べて、自己肯定感が低く、将来についても悲観的である。

① 自分のことが好きだと思うかどうか

- ・自分のことを好きだと思わない子どもは、非生活困難層に比べ生活困難層に多い。

自分のことを「好きだと思わない」「あまり思わない」と答えた児童生徒の割合

小5 生活困難層：40.2% (困窮層：44.9%，周辺層：37.4%)，非生活困難層：28.0%

中2 生活困難層：50.5% (困窮層：53.4%，周辺層：49.0%)，非生活困難層：40.6%

② 将来の夢

- ・夢がないと答えた子どものうち、かなえるのが難しいと感じている子どもは、非生活困難層に比べ生活困難層に多い。

将来の夢がないと答えた子どものうち、その理由を「夢をかなえるのは難しいと思うから」と答えた児童生徒の割合

小5 生活困難層：20.0% (困窮層：14.3%，周辺層：24.1%)，非生活困難層：16.7%

中2 生活困難層：12.5% (困窮層：17.1%，周辺層：9.9%)，非生活困難層：9.3%

「生活困難層」等の定義について

●本調査では、「生活困難層」等を以下の3つの要素に基づいて分類した。

①低所得	③子どもの体験や所有物の欠如
<p>等価世帯所得が厚生労働省「平成28年国民生活基礎調査」から算出される基準未満の世帯</p> <p><低所得基準></p> <p>世帯所得の中央値 428 万円 ÷ $\sqrt{\text{平均世帯人数 (2.47 人)} \times 50\%}$ = 136.2 万円</p>	<p>子どもの体験や所有物などに関する次の15項目のうち、<u>経済的な理由</u>で、欠如している項目が3つ以上該当</p> <ol style="list-style-type: none"> 海水浴に行く 博物館・科学館・美術館などに行く キャンプやバーベキューに行く スポーツ観戦や劇場に行く 遊園地やテーマパークに行く 毎月おこづかいを渡す 毎年新しい洋服・靴を買う 習い事（音楽，スポーツ，習字等）に通わせる 学習塾に通わせる（又は家庭教師に来てもらう） お誕生日のお祝いをする 1年に1回くらい家族旅行に行く クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる 子どもの年齢に合った本 子ども用のスポーツ用品・おもちゃ 子どもが自宅で宿題（勉強）をすることができる場所
②家計の逼迫	
<p><u>経済的な理由</u>で、公共料金や家賃を支払えなかった経験や食料・衣類を買えなかった経験などの次の7項目のうち、1つ以上に該当</p> <ol style="list-style-type: none"> 電話料金 電気料金 ガス料金 水道料金 家賃 家族が必要とする食料が買えなかった 家族が必要とする衣類が買えなかった 	

◆生活困難層（困窮層・周辺層）、非生活困難層

生活困窮層	2つ以上の要素に該当
周辺層	いずれか1つの要素に該当
生活困難層	困窮層 + 周辺層
非生活困難層	いずれの要素にも該当しない

